

カノン砲の台座を新調



新しい台座を迎え、玄関前に設置されたカノン砲
＝佐賀市の佐賀城本丸歴史館

本丸歴史館 砲身塗装も

れた。1977年製造の砲身もさびを取って塗装し直



佐賀城本丸歴史館(佐賀市)に展示されているカノン砲の鉄製模型に台座が新調され、26日に設置さ



し、輝きを取り戻した。多くの観光客が歩く本丸の鯨の門前に配置し、来年の明治維新150年と幕末佐賀藩の科学技術を広くアピールする。

砲身は江戸佐賀藩邸にあったカノン砲を復元したもので、長さ約3・2メートル、最大直径約50センチ、重さ約2・5ト。復元を担当した東亜工機(鹿島市)が無償でさび取りと塗装を申し出た。重さ約4・8トの鉄製台座は、薩摩藩や長州藩の大砲を参考に田中鉄工所(佐賀市)が製作した。本丸歴史館の南里昌芳学芸員(49)は「佐賀藩の科学

技術の象徴である大砲を多くの人に見てほしい。地元の企業が関わること、は、技術の伝承としての意味もある」と話す。
(江島貴之)

